

会議議事摘録

会議名	2021年度第3回学校関係者評価委員会
開催日時	2022年3月13日(日曜日)10:00~12:00
場 所	本校8階視聴覚室
出席者 (敬称略)	<p>①委員:赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、伊藤由紀(高等学校関係者)、小林麻依子(保護者)、篠塚 功(医療事務関連業界関係者)、藤井寿和(福祉関連業界関係者) (計6名)</p> <p>②本校:橋本正樹(校長)、榑原幸之(事務局長)、村山由美(医療秘書科学科長・医療事務科学科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、三宅かおり(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科学科長、医療事務IT科学科長、診療情報管理科学科長)、川畑亮子(医療マネジメント科副学科長・診療情報管理専攻科副学科長、医療事務IT科副学科長、診療情報管理科副学科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、熊谷 崇(介護福祉科教員・教務委員長)、伊東由美(看護科学科長) (計9名)</p> <p>③委員会事務局:松本晋圭、土屋瑠美子、土方雄太(計3名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計18名)</p>
欠席者	西村拓也(くすり関連業界関係者)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)
配付資料	<p>□資料1:2021年度第2回学校関係者評価委員会議事録案、□資料2:2021年度第2回委員会以降の主な経過報告 別添A:2021年度卒業式資料、別添B:2021年度進路決定状況、別添C:2021年度教員研修計画・実績、別添D:2022年AO入試入学予定者への入学前指導プログラム(スクーリング)、別添E:2021年度度後期授業アンケート集計結果、□資料3:2021年度の重点目標と達成するための計画・方法、資料4:2020年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み、□資料5:2021年度学校関係者評価報告書案</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>新型コロナウイルスの第6波の感染拡大により、予断を許さない状況が続いている。教育活動については、1月後半から授業を原則オンラインに切り換え、その後試験は無事終了した。</p> <p>3月10日には、昨年同様、卒業生と常勤の教職員のみでの参加で卒業式を挙行了。2年制学科の卒業生はコロナ禍の中で入学式も行えず、体育祭をはじめ学校行事の中止、オンライン授業の実施が相次ぎ、卒業式で初めて全員が揃うことになった。2年間、満足した学校生活が送れなかったことについては非常に残念に思っている。本校は医療と福祉の学校なので、最新の知識を仕入れながら、正しく恐れるとともに、自信をもって社会人として巣立ってほしいと思っている。</p> <p>今後も教育上、判断の難しい問題も起こると思うが、委員の皆様にはサポーターとしての貴重なご意見をいただきたい、との挨拶が行われた。</p>

2. 前回委員会議事録の確認（資料1）

委員長より諮ったところ、特段の修正意見はなく、承認された。

3. 2021年度第2回委員会以降の主な経過報告（資料2）

2021年度第2回委員会以降の主な経過について、各担当者から報告した後、委員長の求めに応じて授業アンケートの自由記述部分に関して各学科長から説明を徴した。その後全体について質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 2021年度重点目標の取り組み年度末点検報告（資料3）

橋本校長より重点目標の取り組み状況について年度末点検報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2020年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み年度末点検報告（資料4）

各担当者が記述した年度末点検に対して、ページごとに追加コメント、質問・意見をいただく形で確認が行われた。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

6. 2021年度学校関係者評価報告書の確認（資料5）

前回委員会で確認された部分に総評を追加した評価報告書について意見を求めたところ、特段修正等の意見はなく、この内容で報告することが承認された。

7. 意見交換など

委員長より意見交換を求めたところ、コロナ禍における職員の満足度調査に関する意見があった。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他

事務局より、学校関係者評価の実施に関する細則の新旧対照表の変更箇所について説明があり、審議の結果、了承された。

以上

2021 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 2021 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告

1. 学生の状況関連（説明者：榊原事務局長）

(1) 卒業関連

- ・ 3 月 10 日（木）に卒業式・修了式が行われた。

(2) 退学の状況

- ・ 今年度は非常に低い数字で収まっている。

（退学防止に向けた活動）

- ・ 例年同様、「退学者・学籍異動の記録」「退学防止の事例記録」を学内ネットで共有して活用している。また、科目ごとの欠席届を担当が把握し、退学の兆候に気づけるようにしている。
- ・ 学生委員会を中心とした対策としては、退学意向申出者の対応経過について調査し、保健室、学生相談室と連携して対応している。
- ・ 教務委員会主催で、AO入試による入学予定者に対して入学前指導プログラムを行っている。

2. 学生募集関連

(1) 入学試験及び出願状況（2 月末時点）

3. 教務委員会関連（説明者：熊谷教務委員長）

(1) 2021 年度教員研修計画・実績（資料 2-C）

- ・ 前回委員会以降に追加された研修を備考欄に記入している。

(2) 2022 年度 AO 入試入学予定者への入学前指導プログラム（スクーリング）（資料 2-D）

- ・ 3 月 7 日（月）に午前、午後の 2 部に分けて実施した。
- ・ 全体ではなく、直接各学科の教室に集合する分散型で実施した。
- ・ 専門分野への導入を目的としたスクーリングⅡを中心に行い、スクーリングⅠの一部は中止した。
- ・ 校長挨拶、事務局・学科紹介は学内オンラインで実施した。
- ・ 一部メニューの中止は残念だったが、学校全体で新入生を歓迎する姿勢とオンライン授業のイメージを示せたことが成果と考えている。

4. アンケート関連（説明者：事務局松本）

- ・ 前期の集計結果は、前回（第 2 回）会議で資料を提出した。今回は後期の結果を資料として配付したのでご覧いただきたい。

※授業アンケートの自由記述について（説明者：各学科長）

〔医療秘書科〕

（よいところ）

○専門科目（診療報酬・医事コンピュータ・医療法規など）

- ・ 検定に合格できてうれしい。 ・ 検定対策のプリントが穴埋め式でとても分かりやすかった。
- ・ なぜそうなるのかを説明して下さったので、暗記だけではなくて理解ができた。

○基礎科目（社会人基礎・秘書実務・パソコン演習など）

- ・ 常識的なことでも知らないことがたくさんあることに気づいた。 ・ アルバイトで正しい敬語を

意識するようになった。 ・授業のおかげで人として成長できた。

○全般

- ・パワーポイントやビデオ教材を使ってくれるので分かりやすい。 ・経験や実体験を交えて話してくださるので、イメージがわかりやすい。 ・導入や間の現場の話、豆知識が面白い。やる気が出る。 ・毎回確認テストをしてくれるので、間違っていて覚えているところ、自分が覚えきれなかったところ分かる。
- ・私語を注意してくれるので助かる。

○2年生が1年生の授業に入って教える科目について

(1年生から)

- ・2年生がいてくれたのですぐ質問できた。 ・分からないときに声をかけてくれた。 ・自分もそうだったよと共感してくれてうれしかった。

(2年生から)

- ・人に教えることの難しさを学んだ。 ・貴重な経験ができた。 ・これからも続けてほしい。
- ・私語を注意してくれるので助かる。

(改善してほしいところ)

- ・オンライン授業で途中、声が途切れしまう。 ・メモをしている最中に画面が切り替わってしまう。

[医療マネジメント科・医療事務IT科・診療情報管理科]

- ・自由記述を書く学生はそれほど多くない。
- ・改善点は物理的なことが多く、授業スピードや問題を解く時間、机の位置、パソコンのシステムの問題などが挙げられている。
- ・難易度の高い授業のほうが不満が出やすい。
- ・オンラインではなく対面でやってほしいという意見が散見された。
- ・去年は教科書を投影し、重要なところに線を引いたり、印をつけさせたりしていたが、今年は線を引いた教科書を授業前にデータで送って欲しいと言われた。以前は学生が自分でノートを取って覚えていたが、今は何でも与えられるものだと思っている。自分で工夫し、自主的に取り組まなくなるマイナスの部分がいずれ出てくるかもしれない。
- ・特定の科目に改善点が集まったので、その先生とすり合わせをする機会を設けている。
- ・去年と同じ授業をしていると満足してもらえない時代になっている。

[くすり・調剤事務科]

- ・板書の字が小さい、読みづらい、書いている間に消される等の意見が多かったが、最近のパワポの資料を投影したり、プリントを渡すことで少なくなった。
- ・授業のスピードが速い、1個ずつ問題を解説してほしいというコメントが毎回ある。先生方にはできるだけゆっくり話してもらふことと、100%を求めず、重要なポイント以外は宿題なり課題なりで対応するようお願いしている。教えるボリュームと授業時間数のバランスの問題もあるので、分かりにくい科目については時間数を多くする等の工夫をしている。

[介護福祉科]

- ・全体的にコメントは少なく、特に2年生になると減っていく。
- ・肯定的な意見とそうでない意見とに分かれている。(・早口でついていけない。 ・文字が小さ

い。 ・眠くなるので板書をしてほしい。 ・資料を出してほしい ・授業で国家試験問題を出してもらって助かる。 ・授業が面白い。 ・役に立つ授業だと思う。 ・専門用語が難しく覚えてるのが大変だ。)

・留学生からは、ゆっくり話してほしい、字は大きく見やすく書いてほしいという意見がある。

[看護科]

・よい意見としては、新しい知識を得てさらに興味がわいた、より看護観が高まった、看護師としての責任の重み、自分の課題が分かった等がある。

・マイナス意見には、改善できるものと、すぐに改善は難しいものがある。字や声が小さいというのは残りの授業で改善できるので、先生方も努力していると思う。

・科目の意義が分からないという意見もある。そこはシラバスをもう一度丁寧に説明することが必要かと思う。

・授業の資料をペーパーで配っているが、デジタル化してほしいという意見があった。今後も増えると思うので、そこは検討していかねばいけないと思っている。

・全体的に難易度が高い科目に関しては、用語が分からないとついていけないので、「分かりづらい」と書く傾向があるかと思う。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>・学生の意見がよく分かり、伺ってよかったと思う。</p> <p>ノートを取らない、要点がまとまったプリントが欲しいという点に関しては、今は社会全体が過保護になってきている。自分でノートを取り、要点をまとめる力が必要なのではないか。</p> <p>他の先生方にご意見を伺いたい。</p>	<p>・学生の要望に応えるのはよいことだし、先生方の誠実な姿勢が伝わってくる。基本事項はある程度与えてあげて、併せて自分たちで考えていくような授業をされているのであれば、そこでフォローできるのではないかと。</p> <p>・介護の現場でもオンラインによる研修が進んだが、なぜこういう資料を出すかという目的をしっかり伝えることを大事にしている。介護の現場では、会っている瞬間だけの介護サービスではなく、その人の生活を考えた上でサービスを提供していくことになるので、オンラインのメリット・デメリット、授業の目的をどこに持つかが大切だと実感している。</p> <p>・先生方が学生の意見を聞きながら、丁寧に、工夫して授業をされているのがよく分かった。基礎的な知識は押さえなければならないが、自ら学ぶ力、専門職として常に学び続けていく力は、学校全体の様々な取り組みの中でつけていかねばならないと思う。</p> <p>オンラインは、グループワークはできるものの、</p>

<p>・主な内定先を見ると、介護福祉科で病院関係の就職が全然ない。求人がないのか、学生が病院への就職を希望しないのか。</p> <p>・2025年に向けて認知症の患者も増えてくる。看護師の退職理由に介護の大変さもある。これからは病院の中に介護部門をつくり、看護と両建てにすることが大事だと思う。</p> <p>私が長年コンサルしているところは、昔から介護部門を立ち上げていて、看護と介護は立場的に同じになっている。今、施設の賃金が上がって病院のほうに来てくれなくて困っている。今後は介護で病院に就職するニーズも出てくると思う。</p> <p>・私も今後は病院の中に介護職が必要だと思う。当院では看護補助者がその部分を担っているが、非常勤職員なので、そういうところから病院が改善していかないと採用は難しいと思う。</p>	<p>対面で議論することはできない。退学者が少ないのはよいことだが、人と関わる力がついていないので、就職してからの離職率が高くなるのではないかな。</p> <p>・朝起きて、着替えて、時間に間に合うように行くことが、社会に出たときに大切なので、対面授業のほうが不安は少ない。人数を減らすとか、午前・午後に分けるなどの工夫をして対面授業をしていただけるとありがたい。</p> <p>・昨今、医療と介護の連携が強調されているが、病院は看護補助という印象があり、学生から病院に就職したいという意見は聞いたことがない。どちらかというの特養、リハビリや医療について学びたい人は老健に就職するケースが多い。</p> <p>・専門学校全体の傾向だが、介護福祉科については大体特養とか老健に就職している。その理由は、実習先に就職するからで、医療や在宅の場で介護福祉士が活躍できることを知らないのではないかな。</p> <p>介護福祉士の国家資格のカリキュラムが重度の方々向けの施設等で活躍できる人向けになっているのも特徴かと思う。</p> <p>病院で働いても介護福祉士は加算がつかないので、給与が上がらない。施設だと加算がついて給与が上がるので、年収が変わってくる。</p> <p>キャリア段位制度も、在宅で働いていると段位が取得できないので、どうしても施設に移行しやすいし、経営しやすいのかもしれない</p>
---	--

次第4. 2021年度重点目標の取り組み年度末点検報告

○橋本校長より、資料3に基づき、今年度の重点目標とその達成のための取り組み状況について、以下のとおり年度末の点検報告があった。

①TPCの育成と強化

2年間に及ぶコロナ禍で対面型の授業ができなかった。今後は、オンラインの特性を生かして、これまでの教育をどう変えるかが重要になる。対話力はオンラインを活用して強化できる可能性があるので、研究の対象としていきたい。

②新たな入学者層を対象とする教育プログラムと学びのサポートプログラムの開発

外国人留学生、社会人の学び直し、東京都の職業訓練等への学びの提供を目標としてきた。

③入学者定員の充足

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<ul style="list-style-type: none"> ・AO入試は、一応合格とし、3回ぐらいの課題を出したら入学許可を出すとか、3学期の調査書を出させるような仕掛けがあればいいかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校も入学前の課題を3回与えている。専門学校の場合は職業に対して目的を持って入ってくる学生が多いと思うし、専門分野で力を発揮する学生もいる。引き続き入学後の学びがスムーズにいくような指導に力を入れていきたい。

次第5. 2020年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み年度末点検報告

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業も参観できるのか。 ・介護福祉科でICTに関する新規科目を2022年度開講予定とあるが、具体的な内容を教えてほしい。 ・オンライン授業は、人数の制限はあるのか。教員の負担を減らすために2クラスを同じ時間割でもできるか。 ・医療秘書検定の合格者が3級のほうが少ないのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Zoomで参加できる。 ・「情報と社会」という科目で、ICTに関する基礎的な知識を盛り込みつつ、介護分野でのICT技術の導入実例を踏まえた内容になっている。 ・教室だとキャパシティが決まっているが、オンラインの場合は制限がない。2クラス合同にして教育効果が高いか、変わらないのであればそういう選択肢もあると思う。学生は知らない人が画面に入ってくるのを嫌がる傾向があり、学生の意見ばかりを重視しているわけではないが、人数が多くても平等に情報提供できるというメリットもある。 ・今年度も、1年生は6月検定は受験せず11月に2、3級を併願して受験した。問題の出題傾向が影響したためか、3級は不合格、2級は合格という学

<p>・先日卒業を迎えた2年制学科の学生は、コロナ禍の中で入学し、コロナ禍の中で卒業した。授業や実習についてはいろいろ工夫されたと思うが、学内行事が中止や縮小される中で感想やコメントを聞いていたら教えてほしい。</p> <p>・日本看護学校協議会で卒業生にアンケートを取っている。その結果を教えていただけるとよいかと思う。</p>	<p>生が複数名いたことによるものである。</p> <p>・コロナ禍で卒業していく学生については、実習も十分できず、採用側の人たちも不安に思っていると思う。この人たちが今後どう育っていくのか注目されているので、次年度以降、職場定着率等のデータを整理するなどして、しっかりと見守っていきたい。</p> <p>・東京都の専門学校の卒業生300名弱に対してアンケートを実施した。実習に行けなかったことで、技術が不安という声もあるが、先輩・上司とのコミュニケーションの困難さという回答が多かった。受入れ側の姿勢が一番の課題かと思う。</p>
---	--

次第7. 意見交換など

○コロナ禍の中で実習の内容を変更したり、授業も急遽変えたりしてすごく大変な2年間だったと思う。教員は業務量も多く、授業準備や評価など様々なことをやっているが、職員満足度調査のようなものはやっているのか。

○ストレスチェック、目標面接、自己申告制度など教職員にとってもよい学園であるための取り組みは継続している。

以上